2023年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師　平野 岳美

1 国公立大学入試の分析

一般に国公立大学の入試で地歴を課している大学は少なく、たとえ課していても文学部を中心に一部の学部・学科のみに課している場合が多い。したがって受験生数が少なく、採点の負担が少ないということもあって、論述問題を出題するところがほとんどである。自分で文章を書いて説明させることで、思考力・判断力・表現力を測ることができるからであろう。

とはいえ、出題形式はさまざまで、大きくは、論述問題が中心の大学と単答問題と論述問題の併用型の大学に分かれる。前者では**東京大学・一橋大学・筑波大学・名古屋大学・大阪大学**などが挙げられ、後者では**北海道大学・京都大学・九州大学**などが挙げられる。

ただ、後者の大学で問われる歴史用語は、難関私大に比べて基本的な用語が多い。難関大学だからといってやたら細かい用語を覚える必要はないだろう。しかし、一方で、選択問題は少なく、正確に漢字で書ける知識が要求されている。また、正誤問題も少ないのが特徴的で、これらは共通テストを受験していることが前提であることの影響であろう。

また、史料や表、グラフを読み取らせて解答させる形式の問題も多い。論述問題でもこうした形式を使って、教科書的知識以上の思考力を要求する問題も少なくない（**東京大学・名古屋大学**など）。

次に 2023 年度の国公立大学入試における出題テーマの特徴を論述問題を中心にみていきたい。

(1) 原始・古代史のテーマ

今年度の国公立大学入試では、原始時代からの出題はほとんどなかった。わずかに**愛知教育大学**で、邪馬台国をテーマにした出題がなされた程度であった。原始時代は問えるテーマが限定されていることもあって、例年出題例は少ない。昨年度は多かったが、今年度は例年に戻ったようである。今年度目についたのは、やはり例年出題例の多い土地制度に関する問題である。今年は、８世紀を中心とした出題が多く、**千葉大学**第１問では、改新詔、三世一身法、計帳、墾田永年私財法の史料を提示し、班田収授法の内容、計帳から読み取れる内容、７世紀から８世紀の土地制度の変遷をそれぞれ問うている。また、**新潟大学**第１問では、８世紀の土地政策と民衆の関係について問うている。**名古屋大学**第１問では、**例題１**のように古代における稲の収取に関する問題文に、８世紀から９世紀にかけての租の蓄積量を示す表、墾田永年私財法と『令集解』田令田長条引用の「民部例」の史料を示し、９世紀に租の蓄積は維持できていたかどうかとその理由を説明させる出題がなされている。

■例題１　2023年度 名古屋大学：第１問 問４

> **問４**　（略）班田収授法が機能しなくなりつつある９世紀において、租の蓄積は維持できていたのであろうか、それともできなかったのであろうか。表１の、特に「年平均の蓄積量」のデータを参照して述べよ。また、そのような蓄積状況となった背景を、史料３、史料４を参考にして推定せよ。（解答欄３行）（表１・史料３・４省略）

この問題では、表１の読み取りによって８世紀と９世紀を比較して租の蓄積量が維持されていることを読み取り、史料３の墾田永年私財法から開墾田が増加したと推定できること、そして、史料４の「民部例」から墾田が輸租田と規定されていることを読み取れば解答にいたれる。比較的簡単な問題だが、教科書には国衙の租の蓄積量が維持されていることなど書いていない。９世紀＝律令制崩壊＝政府財政難という一般的な理解をしている受験生にとっては動揺する問題であったかもしれない。先述した「教科書的知識以上の思考力を要求する問題」の典型例である。なお、古代から中世の土地制度史は『図説日本史通覧』(以下、『通覧』) p.95 にまとめられている。また、p.326-329 では、経済、社会とのかかわりのなかで土地制度の変遷が整理されている。ぜひ有効に活用したい。

(2) 中世史のテーマ

今年度は中世史からの論述問題の出題はやや少なめであった。その中では、文化史からの出題が多く、**京都大学**第４問（1）では院政期から鎌倉時代の宗教・文化の受容層の広がりが、**信州大学**Ａ（４）では鎌倉仏教の各宗に共通する特徴が、**九州大学**第２問 問６では蘭溪道隆の足跡と鎌倉に定住した理由が出題された。**千葉大学**第２問 問５では**例題２**のように室町時代に流行した文化の特徴が、**京都府立大学**第３問（Ａ）では、室町期から戦国期の文化の地方普及が出題されている。純粋な文化史の問題もあるが、ほとんどが当該期の社会経済や政治･外交などと関連づけて論じる必要がある問題である。文化史学習はどうしても作者や作品名を覚えることに労力がさかれがちだが、論述対策では他分野と関連づけて特徴を理解しておくことが重要であろう。

■例題２　2023年度 千葉大学：第２問 問５

> **問５**　下線部②「茶寄合」､下線部③「連歌会」と並んで、室町時代に流行した代表的な芸能の名称を、具体的にひとつ答えなさい。その上で、室町時代に流行した文化の特徴を、背景や担い手を踏まえ 150 字以内で説明しなさい。

この問題は、社会経済史との関連で、「集団で楽しむ文化」という室町文化の特徴の理解を問うものである。

そのほか、**筑波大学**第２問では、鎌倉幕府御家人の所領と相続形態の推移が、**東京都立大学**第２問で執権政治から得宗専制への変化の過程が、**東京大学**第２問では武士の家督継承決定のあり方の変化と応仁・文明の乱との関係が出題されている。また、**大阪大学**第２問では室町幕府の収入源とその特徴が問われた。これらの問題も社会経済史と政治史との関連を理解しておく必要があり、国公立大学の論述問題では、一つのテーマの知識を問うだけではなく、他分野との因果関係などの関連を問う問題が多いのが特徴である。

(3) 近世史のテーマ

近世史では今年度は外交関連史からの出題がめだった。**東京学芸大学**第３問は近世外交がテーマの大問であり、問 10 で近世アイヌ社会を出題している。**新潟大学**第３問も外交史がテーマであり、問８で琉球使節の日本国内の人々に与えた効果について史料読み取りの形で問うた。そのほか、**北海道大学**第３問 問４は 1807 年から 1821 年の幕府の対蝦夷地政策を、**大阪大学**第３問は糸割符制度を、**京都府立大学**第２問 問 17 は対馬･薩摩･松前の貿易の内容をそれぞれ問うている。

文化史からの出題もいくつかみられた。**筑波大学**第３問は**例題３**のように幕府の儒学受容の推移を、**東京大学**第３問は寄席の急増した理由と町奉行が寄席を擁護した理由を､**東京都立大学**第３問は新井白石と会沢安の思想･主張を、**京都府立大学**第３問（Ｂ）では 18 世紀後期から 19 世紀中期までの洋学の展開と社会への影響をそれぞれ扱っている。

■例題３　2023年度 筑波大学　前期日程：第３問

> **第３問**　江戸幕府における儒学受容の推移について、次の（ア）～（エ）の語句を用いて論述せよ。（略）
>
> （ア）寛政異学の禁　　（イ）湯島聖堂
> （ウ）文治主義　　（エ）荻生徂徠

この問題でも幕府政治の展開と関連づけて論じる必要があることは明らかで、やはり、文化史学習の指針を示してくれる問題である。

(4) 近現代史のテーマ

近現代史は出題量も多く、テーマも多岐にわたるが、今年も昨年同様「民衆・民衆運動」「戦争・ファシズム」のテーマがやや多かったように感じた。**北海道大学**第４問 問７は米騒動を、**千葉大学**第３問は自由民権運動を、**筑波大学**第４問は日比谷焼き打ち事件を、**東京学芸大学**第４問は軍部の台頭を、**信州大学**Ｂ（7）は第一次世界大戦後の社会運動とその背景を、**長崎大学**第４問 問１は漸次立憲政体樹立の詔の内容と背景をそれぞれ扱っている。また、**一橋大学**第２問と**大阪大学**第４問でそれぞれ新聞をテーマに出題された｡例年の繰り返しになるが、こうした問題に対応するためには、政治・経済・外交を分離することなく、常に因果関係を意識して連動させながら学習していく必要がある。

戦後史についても徐々に出題が増えてきているように感じる。1970 年代までの学習は必須であろう。今年度でも**東京大学**が第４問すべて戦後史だったのをはじめ、**一橋大学**第３問 問３・５、**新潟大学**第４問 問３・４、**名古屋大学**第４問 問５・６、**愛知教育大学**第２問、**九州大学**第４問 問 10 などかなりの出題がみられる。特に**名古屋大学**第４問 問６はバブル経済についての問題であり、国公立大学においても、いよいよ 1980 年代から 90 年代まで視野に入ってきた観がある。

(5) 史資料を使った問題への対策

先述したが､国公立大学の入試問題では､史資料を使った出題が多く、文字資料を筆頭に、図版資料、表、グラフなどの読み取りを前提に論述させる。この対策には、

日ごろから史資料にふれて、読み取りの練習をしておく必要がある。『通覧』の巻頭９～20はこうした資料の読み解き演習であり、また、各時代各所にさまざまな資料が説明とともに掲載されており、これらを活用した学習が有効であろう。

2 私立大学入試の分析

私立大学で地歴を受験科目に課す大学は膨大であり、さまざまな時代・分野から出題される。したがって、原始から1970年代までの基本的学習が対策のベースである。そのことを前提に、最近の傾向として注目しておきたい点をいくつか指摘しておく。

(1) 1980年代以降の現代史

1970年代までの学習が基本である旨前述したが、ここ数年1980年代（以下、80年代）以降の現代史からの出題が急増している。そろそろ少なくとも80年代までを基本的学習の範囲に入れなければならなくなりそうである。特に関東の私大でその傾向は顕著で、55年体制の崩壊までは押さえておく必要があるかもしれない。ただ、福田赳夫内閣まではすべての総理大臣の名前が出題されるが、それ以降はそうではなく、まだピンポイントで問われるだけなので、そこを押さえておけばなんとかなるだろう。政治史では中曽根康弘内閣が出題頻度が高く、55年体制の崩壊を扱った問題が多い。経済史では貿易摩擦と農産物の輸入自由化、プラザ合意からバブル経済、平成不況など、外交史では湾岸戦争とＰＫＯ協力法以降の国際貢献、日米安保共同宣言と新ガイドラインおよびその関連法などが頻出テーマである。そのほか京都議定書などの環境問題、東海村ＪＣＯ臨界事故などの原発関係の出題頻度が高い。今年度は**慶應義塾大学**文学部第３問で1990年代を扱った問題が出題された。全部で空欄８個の問題だが、すべて記述であり、この間の首相の名前も４人聞いており、かなりの難問であった。80年代以降単独の問題はまだ少ないが、問題文の後半で80年代に入り、数問の設問をおいている問題は少なくない。今年度でも**慶應義塾大学**商学部第３問（**例題４**）をはじめ、**青山学院大学**、**中央大学**、**明治大学**、**学習院大学**、**立教大学**、**早稲田大学**などで出題されている。一方、関西でも**関西学院大学**２月４日実施分第４問では高度経済成長の終焉から橋本龍太郎内閣成立までを世界経済との関係を中心とした問題文に政治・外交を絡めた設問が出題された。それ以外でも小問レベルで**同志社大学**や**関西大学**などでも出題されている。

■例題４　2023年度 慶應義塾大学：商学部 第３問

（前略）1980年代に入ると日本は安定成長を続け、対米貿易黒字が激増したため、貿易赤字になやむアメリカからは特に強い非難があった。1981年に発足したアメリカの [(99)|(100)] 政権の時期には、自動車の（ ｄ ）と農産物の輸入自由化を強く求めてきた。1985年にニューヨークで開かれた [(101)|(102)] では、ドル高の是正がはかられた。この後、急速な円高となり、日本は不況にみまわれた。不況対策の一環として、公共事業の拡大と所得税減税による内需拡大、低金利政策が実施されると、地価や株価の暴騰をともなう好況となった。また、[(103)|(104)] 内閣が発足させた第２次臨時行政調査会の方針を受け、後継の内閣は行財政改革を推進し、1987年に [(105)|(106)] の民営化を実現した。なお、アメリカの貿易赤字は減少せず、日本経済の制度や慣行が輸入を妨げているとして、[(107)|(108)] において対日批判を強めた。

日本経済は1991年に景気の後退が始まった。クウェートに侵攻したイラクに対し、1991年になってアメリカ軍を主力とする多国籍軍が武力制裁を加えるという（ ｅ ）が起こった。日本は多国籍軍への参加を求められたが、資金援助にとどまった。1992年、宮沢内閣は、[(109)|(110)] 法を成立させ、自衛隊がカンボジアに派遣された。日米同盟の強化を進めた [(111)|(112)] 内閣は1996年に日米安保体制について共同宣言を発表し、翌年、新ガイドラインが策定された。そして、周辺事態安全確保法などの新ガイドライン関連法が [(113)|(114)] 内閣のときに成立した。

現在では、地球環境問題も大きな課題となっている。1997年、温室効果ガスの排出削減の目標を盛り込んだ [(115)|(116)] が採択されたが、のちにアメリカは不支持を表明した。2015年には開発途上国も含めて温室効果ガス排出削減を努力目標とする [(117)|(118)] が採択された。

筆者注：[　　] は語群選択、（　　）は記述。

(2) 蝦夷地・北海道史　琉球・沖縄史

蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史は例年出題は多い。今年度も**早稲田大学**文化構想学部第１問で琉球・沖縄史を全面的に扱った問題が出題された。ちなみに**早稲田大学**は、昨年は法学部で、一昨年は教育学部で琉球・沖縄史を出題している。そのほか、**中央大学**商学部２月11日実施分第３問は近現代のアイヌ史を、**南山大学**人文学部２月10日実施分Ｂ（一）は蝦夷地･アイヌの歴史（**例題５**）を、**関西学院大学**２月７日実施分第２問は中世のアイヌと琉球を（設問レベルでは明治まで）、**駒澤大学**２月６日実施分第４問は近世の蝦夷地について出題している。

そのほか中世の外交や鎖国下の外交、列強の接近や開国

の過程などで蝦夷地や琉球を部分的に扱った問題も多い。

こうした蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の学習には『通覧』が有用である。中世・近世・近代・現代にそれぞれ【特集】が組まれており（現代は沖縄のみ）、詳しく、そしてビジュアルにまとめられているので整理しやすく、理解しやすい。

■例題５　2023年度 南山大学：２月 10 日 B（一）

津軽海峡を越えた北海道には、本州に稲作が伝来した後も、縄文時代以来の狩猟採集経済を基盤とした生活様式をもつ［ A ］文化が展開していたが、北上してきた古墳時代の文化と接触したことで、［ B ］文化へと発展した。この文化が北方の諸民族と接触することで、12 ～ 13 世紀頃にアイヌ民族・アイヌ文化が成立したと考えられている。

アイヌの人々は、13 世紀には津軽の港町である［ C ］を拠点とした安藤（安東）氏と交易をおこなっていた。しかし、次第に和人の圧迫が強まり、それに不満を抱いた大首長［ D ］が 1457 年に蜂起した。この蜂起で、［ D ］は、和人居住域のほとんどをいったん攻め落としたものの、上之国の領主であった蠣崎氏によって制圧された。

蠣崎氏は、近世になると［ E ］氏と改称し、徳川家康から大名として認められた。［ E ］藩は、石高を持たない藩であり、他藩の俸禄制度とは異なる$_a$［ F ］知行制を藩の基盤としていた。この制度の下では、藩や和人によってアイヌ民族に対する苛酷な収奪がおこなわれた。1669 年には、アイヌ民族による大規模な蜂起が起きたが、制圧された。

明治時代に入り、新政府は、アイヌ民族の救済と保護を目的として、1899 年に［ G ］法を制定したが、アイヌ民族の文化の破壊を止めることはできなかった。この法律は、1997 年にアイヌ文化振興法が制定されるまで存続した。

［設問］

（1）～（5）…省略、空欄Ａ～Ｅ・Ｇは空欄補充問題

（6）下線部ａについて、これは家臣に対して何を知行として与える制度であったか、空欄［ F ］に入る語を用いて、20 字程度（句読点も 1 字に数える）で説明しなさい。

（3）図版資料（彫刻・絵画・建築など）を使った問題

出題形式で注目されるのは文字資料ではない図版を使った問題である。例えば**早稲田大学**文学部第６問は毎年のように図版問題を出題している。一般に、図版を示して、作者名や作品名を答えさせる、逆に作品名や作者名を出して該当する図版を選ばせるという単純な問題も多く、有名な図版は一度は見て確認させておく必要があろう。『通覧』には各時代各所にさまざまな図版が掲載されており、これを利用して日常的にこうした図版資料に慣れさせておくといいだろう。

また、共通テストでもみられるような図版を示して読み取りをさせる問題もある。例えば今年度では、**早稲田大学**教育学部第２問で、武士の館を描いた図版を２枚示して、読み取りをさせる問題が出題されている（**例題６**）。

■例題６　2023年度 早稲田大学：教育学部 第２問

（図版省略）

問５　下線部ｇについて、鎌倉時代の武士の館の特徴として写真１・２から読み取れることはどれか。すべて選べ。

ア　屋根に瓦が葺かれた複数の建物が立ち並ぶ豪壮なたたずまいであった。

イ　門には扉がなく、塀すらない場合もあり、防御性には多様な実態があった。

ウ　屋内の部屋には畳が敷かれ、障壁画が描かれた障子に仕切られた部屋もあった。

エ　主屋には廂（ひさし）も縁側もなく、きわめて質素な造りであった。

オ　簡単には飛び越えられない大きな堀や、人の背丈を越える堅固な土塁で囲われていた。

こうした図版の読み取り問題は日常的に読み取りの練習をしておく必要がある。国公立大学分析のところでも述べたが、『通覧』の巻頭の資料の読み解き演習が格好の練習の場を提供してくれている。

（4）「歴史総合」「日本史探究」の影響

昨年 11 月に共通テストの『歴史総合，日本史探究』の試作問題が公表された。時期が遅かったこともあるだろうが、今年度の入試問題を見る限り、その影響はまだそれほどみられない。「歴史総合」の世界史部分を出題すれば現状では範囲逸脱になってしまうし、「日本史探究」は教科書がまだ発行されていない段階であったから当然反映されることはなかったであろう。ただ、共通テスト型の問題は増加しつつあり、先述した**早稲田大学**教育学部第２問は共通テストによくみられる会話形式の問題文に史料や図版資料を利用した読み取り問題で構成されている。会話形式はその文脈の中で「探究」の姿勢が織り込まれるものであり、今後、こうした形式の出題が増加する可能性がある。また、今年度は地図問題がかなりみられた。日本国内以外の場所を問う問題も散見されている。例えば**青山学院大学**文学部２月 14 日実施分第３問 問７は伊藤博文が暗殺された場所を問うた。こうした問題も今後増加していく可能性は十分にあるだろう。『通覧』にはこうした地図資料もふんだんに掲載されているため、有効に活用されたい。